



このマークで選びたい！市民発のシンボルマーク
牛乳パック再利用マーク



全国牛乳パックの再利用を考える連絡会
牛乳パック再利用マーク普及促進協議会

牛乳パック再利用マーク誕生までの経緯

●1992年 牛乳パックリサイクルピンチ説浮上

牛乳パックの回収運動の盛り上がりから回収率は0.01%から10数%となりました。

折から世界的なパルプ市況の低下、それを原料とするパルプメーカーの攻勢により、牛乳パックを受け入れている家庭紙メーカーはシェアを落としていました。

こうした状況を受け、牛乳パックの受け入れ製紙メーカーと主要な市民グループにより、「牛乳パック再利用製品利用拡大作業委員会」を発足させ、全国1000人対象に、再生紙の利用実態調査に乗り出しました。

調査を踏まえ、消費者が牛乳パックの回収には協力しているが再生品の購入まで意識が伴っていないことが判明。



●第6回牛乳パックの再利用を考える全国大会において 牛乳パック再利用マークを決定

1997年より年に1回、環境問題やリサイクルにかかわる市民・自治体・事業者など約1000名以上が参加し環境、福祉、教育、地域づくりなどいろいろなテーマで情報交流をおこなう場として「牛乳パックの再利用を考える全国大会」を開催していました。

第6回北九州で開催した全国大会(1992年8月1～3日開催)において問題提起を行い、参加者3000人の投票により、牛乳パック再利用製品の目印として「牛乳パック再利用マーク」を決定。

●牛乳パック再利用マークの普及活動を展開

1992年に全国大会で牛乳パックをリサイクルした製品につけるマークを制定後、これを目印に再生品を使って行くことを目的に、マークの普及と再生品利用を呼びかける「集めて使うリサイクルキャンペーン」を全国で展開。



●1998年第1回グリーン購入大賞優秀賞を受賞

牛乳パック再利用マーク普及キャラバン「集めてつかうリサイクルキャンペーン」を5年間にわたり、全国各地のスーパー店頭や公設市自治体の環境展等455か所で展開した活動が評価され受賞。

キャンペーンには市民グループ、消費者団体、福祉作業所と共にパックマーク使用製紙メーカーも一緒に参加し、再生製品がパルプ製品と全くそん色がないことを、直接消費者に訴えました。





牛乳パック再利用マークは

- 回収された牛乳パック・紙パックを再生した製品であることを示す目印マークです。
- 消費者へ環境にやさしいお買い物をすすめるマークでもあります。
- 牛乳パックの回収率は現在40%程度で、安定的な量の確保が難しいことから、偽装表示を防ぐため、あえて配合率の基準を設けていません。
- 牛乳パック再利用マークのゴールは、回収した牛乳パックが再生品になった際に、消費者が購入し使用するという、しっかりとした循環をつくることです。